

10-12 陸上動物

10-12-1 工事中の造成等による土地の改変、存在・供用時の改変後の地形及び樹木伐採後の状態における保全すべき動物種への影響

(1) 調査結果

1) 現地調査

① 現地調査期日

各項目の調査期日は表 10-12-1 に示すとおりである。

表 10-12-1 陸上動物の現地調査期日

項目	調査手法	調査内容	
鳥類	ラインセンサス調査 定点センサス調査	平成24年7月28日(夏季：繁殖後期)	
		平成24年10月12日(秋季：秋の渡り期)	
		平成25年2月2日(冬季：越冬期)	
		平成25年5月5日(春季：春の渡り期)	
		平成25年6月1日(春季：繁殖前期)	
	任意踏査	平成24年7月27日-28日(夏季：繁殖後期)	
		平成24年10月10日-12日(秋季：秋の渡り期)	
		平成25年2月1日-2日(冬季：越冬期)	
		平成25年5月5日(春季：春の渡り期)	
	夜間調査	平成24年7月27日(夏季：繁殖後期)	
		平成24年10月12日(秋季：秋の渡り期)	
		平成25年2月2日(冬季：越冬期)	
平成25年5月4日(春季：春の渡り期)			
哺乳類	フィールドサイン法	平成24年7月27日-28日(夏季)	
		平成24年10月10日-11日(秋季)	
		平成25年2月1日-2日(冬季)	
		平成25年5月31日-6月1日(春季)	
	夜間調査	平成24年7月27日(夏季)	
		平成24年10月10日(秋季)	
		平成25年2月1日(冬季)	
	トラップ調査	平成24年7月27日-28日(夏季)	
		平成24年10月10日-11日(秋季)	
		平成25年5月31日-6月1日(春季)	
	無人撮影装置	平成24年7月27日-28日(夏季)	
		平成24年10月10日-11日(秋季)	
		平成25年2月1日-2日(冬季)	
		平成25年5月31日-6月1日(春季)	
	両生・爬虫類	任意踏査	平成24年7月27日-28日(夏季)
			平成24年10月10日-11日(秋季)
平成25年5月31日-6月2日(春季)			
夜間調査		平成24年7月27日(夏季)	
		平成24年10月10日(秋季)	
昆虫類調査	任意調査	平成24年7月28日-29日(夏季)	
		平成24年10月11日-12日(秋季)	
		平成25年5月31日-6月2日(春季)	
	ライトトラップ調査 ベイトトラップ調査	平成24年7月28日-29日(夏季)	
		平成24年10月11日-12日(秋季)	
		平成25年6月1日-2日(春季)	

② 確認種数

各項目の確認種数は表 10-12-2 に示すとおりである。

表 10-12-2 陸上動物の確認種数一覧

項目	確認種数	対象事業実施区域		保全すべき種確認種数
		計画地内	周辺域	
鳥類	8目25科52種	22種	52種	2種
哺乳類	7目13科19種	7種	19種	4種
両生・爬虫類	2目7科12種	2種	11種	2種
昆虫類	17目181科729種	390種	541種	2種

③ 陸上動物相の状況

ア. 鳥類

ア) 確認概要

現地調査の結果、8目25科52種の鳥類が確認された。確認された鳥類のリストは表 10-12-3 に示すとおりである。計画地では22種が確認され、アオゲラ、ヒガラ、ヤマガラ等の樹林に生息する種、キセキレイ、カワガラス等の主に水辺周辺に生息する種、ホオジロ、カワラヒワ等の主に農耕地や草地に生息する種が確認された。周辺域では52種が確認された。周辺域は森林環境が多いため、ヤマドリ、アオバト、アカゲラ、ビンズイ、エゾムシクイ、キビタキ等の主に樹林に生息する種が確認された他、笹子川沿いでアオサギ、カルガモ、セグロセキレイ、カワガラス等の主に水辺に生息する種も多く確認された。

渡り区分については図 10-12-1 に示すとおり、留鳥が全体の 63%(33 種)を占め、全体の約 2/3 であった。

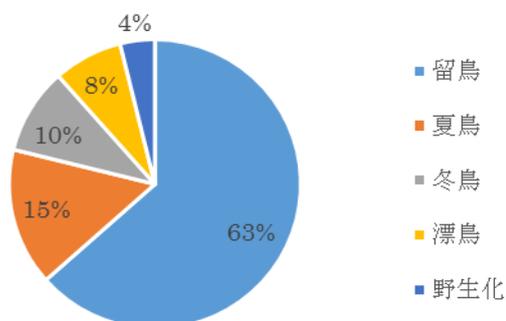


図 10-12-1 確認された鳥類の渡り区分の割合

表 10-12-3 鳥類確認種リスト

No.	目名	科名	種名	学名	事業計画地内	周辺域	渡り区分
1	コウノトリ目	サギ科	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>		1	留鳥
2	カモ目	カモ科	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>		1	留鳥
3			カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>		4	留鳥
4	タカ目	タカ科	トビ	<i>Milvus migrans</i>		4	留鳥
5			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		1	留鳥
6	キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracica</i>		1	野生化
7			ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>		1	留鳥
8	ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	3	6	留鳥
9			アオバト	<i>Sphenurus sieboldii</i>		1	留鳥
10	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>		1	留鳥
11	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	2	5	留鳥
12			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>		1	留鳥
13			コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	3	1	留鳥
14	スズメ目	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>		8	夏鳥
15			イワツバメ	<i>Delichon urbica</i>		2	夏鳥
16		セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	2	9	留鳥
17			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	1	6	留鳥
18			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	2	11	留鳥
19			ピンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>		1	漂鳥
20		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	4	18	留鳥
21		モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	1	5	留鳥
22		カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	4	11	留鳥
23		ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>		1	留鳥
24		ツグミ科	ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>		3	漂鳥
25			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>		1	冬鳥
26			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>		1	冬鳥
27		チメドリ科	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>	2	1	野生化
28		ウグイス科	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	1	4	夏鳥
29			ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	3	11	留鳥
30			エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>		3	夏鳥
31			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>		1	夏鳥
32		ヒタキ科	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	1	8	夏鳥
33			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>		2	夏鳥
34			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>		4	夏鳥
35		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	2	7	留鳥
36		シジュウカラ科	ヒガラ	<i>Parus ater</i>	2	5	留鳥
37			ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	2	9	留鳥
38			シジュウカラ	<i>Parus major</i>	4	18	留鳥
39		メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	4	15	留鳥
40		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	3	19	留鳥
41			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>		1	冬鳥
42			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>		2	漂鳥
43		アトリ科	カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	1	12	留鳥
44			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>		1	冬鳥
45			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>		4	冬鳥
46			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>		1	漂鳥
47			イカル	<i>Eophona personata</i>	1	7	留鳥
48		ハタオリドリ科	スズメ	<i>Passer montanus</i>		5	留鳥
49		ムクドリ科	ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>		8	留鳥
50		カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	1	1	留鳥
51			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>		9	留鳥
52			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>		16	留鳥
合計	8目	25科	52種		22種 49羽	52種 279羽	-

種名及び配列は平成24年度版「河川水辺の国勢調査のための生物種リスト(財団法人リバーフロント整備センター)」に従った。

注: 数字は確認個体数を示す。

イ) ラインセンサス調査結果

ラインセンサス1及び2における調査結果は表10-12-4及び表10-12-5に示すとおりである。ライン1(計画地内)では22種、ライン2(周辺域)では25種の鳥類が確認された。出現状況をみると、ライン1ではヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、ライン2ではキセキレイ、ホオジロ、ハシブトガラス等の留鳥が多く確認された。季節別にみると、春の渡り期にライン1では13種、ライン2では21種で最も種数が多かった。春の渡り期は多くの夏鳥が渡来する時期であり、調査地区においてもヤブサメ、エゾムシクイ、キビタキ、コサメビタキ等の夏鳥が確認された。次に鳥類の多様度をみると、春の渡り期に高く、秋の渡り期から越冬期にかけて低くなる傾向がみられた。

表10-12-4 ラインセンサス調査結果

No.	種名	ライン1(事業計画内)					ライン2(周辺域)				
		繁後	秋渡	越冬	春渡	繁前	繁後	秋渡	越冬	春渡	繁前
1	カルガモ										1
2	キジバト	1			1	1				3	
3	アオゲラ				1	1					
4	コゲラ	2		2		2					
5	ツバメ						3				2
6	キセキレイ		1			1				1	
7	ハクセキレイ	1					1				
8	セグロセキレイ		1	2						1	
9	ヒヨドリ	3	4		5	4	1	4		7	3
10	モズ		1								
11	カワガラス	2	1	2	1		1	2		1	
12	ガビチョウ		1			1	1			2	
13	ヤブサメ				1					1	
14	ウグイス	2			1	2					1
15	エゾムシクイ									1	
16	キビタキ				1					3	1
17	コサメビタキ									1	
18	エナガ	1		2							
19	ヒガラ		3	1							
20	ヤマガラ	3			1					2	
21	シジュウカラ	2		6	2	1	3	5	2	3	2
22	メジロ	1	4		4	3	2	1		2	1
23	ホオジロ	6	2		5				1	3	1
24	アオジ								1		
25	カワラヒワ				2					3	
26	イカル					1				1	
27	ムクドリ						4			4	
28	カケス				2					3	
29	ハシボソガラス									2	
30	ハシブトガラス									1	
合計	30種	11種	9種	6種	13種	10種	8種	4種	3種	21種	7種
		22種					25種				

注：数字は確認個体数を示す。

表10-12-5 鳥類の種数、優占種及び多様度指数(ラインセンサス結果)

ルート	ライン1					ライン2				
	繁後	秋渡	越冬	春渡	繁前	繁後	秋渡	越冬	春渡	繁前
確認種類数	11種	9種	6種	13種	10種	8種	4種	3種	21種	7種
	22種					25種				
優占種	ヒヨドリ・シジュウカラ・メジロ					キセキレイ・ホオジロ・ハシブトガラス				
Shannon-Wienerの多様度指数H'	3.21	2.91	2.34	3.38	3.10	2.78	1.78	1.50	4.15	2.65
	3.92					4.02				

ウ) 定点調査結果

定点調査 P1 及び P2 おける調査結果は表 10-12-6、表 10-12-7 に示すとおりである。P1 では 32 種、P2 では 25 種の鳥類がそれぞれ確認された。出現状況をみると、P1 ではキセキレイ、ホオジロ、ハシブトガラス、P2 ではヒヨドリ、メジロ、ムクドリ等の留鳥が多く確認され、ラインセンサス調査結果と比較して出現状況に大きな変化はみられなかった。季節別にみると、P1 では繁殖前期に 20 種、P2 では春の渡り期に 13 種で最も種数が多かった。これらの出現傾向もラインセンサス調査結果と比較して大きな変化はみられなかった。次に多様度指数をみると、P1 では越冬期、P2 では繁殖後期から秋の渡り期にかけてやや低くなる傾向がみられた。

表 10-12-6 定点調査結果

No.	種名	P1(周辺域東)					P2(周辺域西)				
		繁殖後	秋渡	越冬	春渡	繁殖前	繁殖後	秋渡	越冬	春渡	繁殖前
1	トビ		1								
2	コジュケイ										1
3	キジバト		1		1	1					
4	カワセミ									1	
5	アオゲラ		1					2			
6	コゲラ		1	1		1	1		1		1
7	ツバメ	3			2	5	2				
8	イワツバメ	1									
9	キセキレイ	2	1	1	1	1					
10	ハクセキレイ	1				1					
11	セグロセキレイ		2	2	1	1		1	1		
12	ヒヨドリ	1	2		6	6	2	4	1	3	4
13	モズ		1						1		
14	カワガラス		2	2		1	1				
15	ルリビタキ			1							
16	ガビチョウ		1		1					1	1
17	ヤブサメ				1						
18	ウグイス	2				1	2			1	1
19	エゾムシクイ									1	
20	キビタキ				1	1				1	1
21	コサメビタキ				1						
22	エナガ			6							
23	ヒガラ					1		2			
24	ヤマガラ					1	1		2		
25	シジュウカラ		2	3	2	1			1	1	1
26	メジロ	8	1		2	3	2	3		1	3
27	ホオジロ	4	3	2	3	3	1	1	2	1	1
28	カワラヒワ	5	5			1	1		2	1	
29	ベニマシコ			1					1		
30	イカル				1	1		2		2	
31	スズメ	1				2					
32	ムクドリ				4	1	9				
33	カケス		1		1			1	1		
34	ハシボソガラス				1			1			1
35	ハシブトガラス	1	2	1	1	1	2		1	1	1
合計	52種	11種	16種	10種	17種	20種	11種	9種	11種	13種	10種
		32種					25種				

注：数字は確認個体数を示す。

表 10-12-7 鳥類の種数、優占種及び多様度指数(定点調査)

定点	P1					P2				
季節	繁後	秋渡	越冬	春渡	繁前	繁後	秋渡	越冬	春渡	繁前
確認種類数	11種	16種	10種	17種	20種	11種	9種	11種	13種	10種
	32種					25種				
優占種	キセキレイ・ホオジロ・ハシブトガラス					ヒヨドリ・メジロ・ムクドリ				
Shannon-Wienerの 多様度指数 H'	3.05	3.78	3.01	3.76	3.95	2.98	2.98	3.38	3.58	3.06
	4.41					4.20				

エ) 任意調査結果

任意調査における調査結果は表 10-12-8 に示すとおりである。任意調査はルートセンサスや定点調査以外で確認された種や他の調査項目実施時に確認された鳥類を主に記録した。任意調査では 42 種の鳥類が確認された。このうち、ラインセンサス及び定点調査で確認されなかった種はアオサギ、オシドリ、ハイタカ、ヤマドリ、アオバト、アカゲラ、ビズイ、ミソサザイ、ジョウビタキ、ツグミ、センダイムシクイ、オオルリ、カシラダカ、マヒワ、ウソの 15 種であった。任意調査ではハイタカやアオバトなど比較的出現例数の少ない鳥類が確認された。

表 10-12-8 任意調査結果

No.	種名	任意				
		繁後	秋渡	越冬	春渡	繁前
1	アオサギ	1				
2	オシドリ	1				
3	カルガモ	1			1	
4	トビ		2		1	
5	ハイタカ			1		
6	ヤマドリ			1		
7	アオバト					1
8	アオゲラ	1	2			
9	アカゲラ		1			
10	コゲラ		1	2	1	
11	キセキレイ		2			
12	ハクセキレイ		1			
13	セグロセキレイ	1		1		
14	ビンズイ		2			
15	ヒヨドリ	2	2		1	
16	モズ	1	1			
17	カワガラス		2	2		
18	ミソサザイ			1		
19	ルリビタキ			2		
20	ジョウビタキ			2		
21	ツグミ			1		
22	ガビチョウ	1	1			
23	ヤブサメ					
24	ウグイス	1	2		1	
25	センダイムシクイ	2				
26	オオルリ	1				1
27	エナガ	1	2	2	1	1
28	ヒガラ	1	1			
29	ヤマガラ	1	2	1		
30	シジュウカラ	1	2	2	1	
31	メジロ	2				
32	ホオジロ	1	1	1	1	
33	カシラダカ			1		
34	カワラヒワ	2		1	1	
35	マヒワ			1		
36	ベニマシコ			1		
37	ウソ			1		
38	スズメ	1	1			
39	ムクドリ	1				
40	カケス	1	1	1		
41	ハシボソガラス			1	1	1
42	ハシブトガラス	2	1	2	1	
合計	42種	22種	20種	21種	11種	4種
		42種				

注：数字は確認個体数を示す。

イ. 哺乳類

ア) 確認概要

現地調査の結果、7目13科19種の哺乳類が確認された。確認された哺乳類のリストは表10-12-9、その位置は図10-12-2(1)～(4)に示すとおりである。調査範囲内の哺乳類相は森林を中心に活動するツキノワグマ等の大型哺乳類、森林から農耕地、民家周辺などに広範囲に活動するタヌキ、キツネ等の中型哺乳類、農耕地周辺に多く生息するジネズミやアズマモグラ等の小型哺乳類、河川や溪流に生息するカワネズミと比較的多様な種が確認された。出現回数の多かった種としてはホンドジカで計画地やその周辺域で多くの足跡や糞の痕跡が確認された。また、近年分布を拡大している外来種のアライグマが確認されたことは生息域が重なると考えられるタヌキやキツネなどの中型哺乳類の生息状況に変化が生じている可能性が考えられた。

表 10-12-9 哺乳類確認種リスト

№	目名	科名	種名	学名	計画地内				周辺域				確認状況			
					夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季				
1	モグラ目 (食虫目)	トガリネズミ科	ジネズミ	<i>Crociodura dsinezumi</i>									●	死体		
2			カワネズミ	<i>Chimarrigale platycephala</i>										●	死体	
3	モグラ科		アズマモグラ	<i>Mogera imaizumi</i>	●										●	坑道・罾
4	コウモリ目 (翼手目)	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科の一種	<i>Vespertilionidae Gen. sp.</i>											●	パッドデイトクターによる夜間調査
-		-	コウモリ目の一種	<i>Chiroptera Fam. Gen. sp.</i>											●	パッドデイトクターによる夜間調査
5	サル目 (霊長目)	オナガザル科	ニホンザル	<i>Macaca fuscata fuscata</i>											●	糞
6	ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>											●	糞
7	ネズミ目 (齧歯目)	リス科	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>											●	食痕
8			ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>											●	食痕
-			リス科の一種	<i>Sciuridae Gen. sp.</i>											●	食痕
9	ネズミ科		アカネズミ	<i>Apodemus speciosus speciosus</i>											●	捕獲・食痕
10			ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus argenteus</i>											●	捕獲・キツネ糞中
11			カヤネズミ	<i>Micromys minutus japonicus</i>											●	糞
-			ネズミ科の一種	<i>Muridae Gen. sp.</i>											●	食痕
12	ネコ目 (食肉目)	クマ科	ツキノワグマ	<i>Selenarctos thibetanus</i>											●	爪痕
13		アライグマ科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>											●	無人撮影
14		イヌ科	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides viverrinus</i>											●	糞・無人撮影
15			キツネ	<i>Vulpes vulpes japonica</i>											●	糞・無人撮影
16			テン	<i>Martes melampus melampus</i>											●	足跡・糞・無人撮影
17		イタチ科	イタチ	<i>Mustela itatsi itatsi</i>											●	糞
-			イタチ科の一種	<i>Mustelidae Gen. sp.</i>											●	糞
-		-	ネコ目の一種	<i>Carnivora Fam. Gen. sp.</i>											●	糞
18	ウシ目 (偶蹄目)	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa leucomystax</i>											●	糞・無人撮影
19		シカ科	ホントシカ	<i>Cervus nippon nippon</i>											●	目撃・足跡・糞・無人撮影
-		-	ウシ目の一種	<i>Artiodactyla Fam. Gen. sp.</i>											●	スタ場・足跡
合計	7目	13科	19種		1種	5種	1種	6種	7種	10種	10種	13種	19種	-		

種名及び配列は平成24年度版「河川水辺の国勢調査のための生物種リスト(財団法人リバーフロント整備センター)」に従った。
 (注)コウモリ目の一種、リス科の一種、ネズミ科の一種、イタチ科の一種、ネコ目の一種及びウシ科の一種については種数から除外した。

イ) トラップ調査

トラップ調査ではアカネズミとヒメネズミの2種が確認された。トラップ調査の結果は表10-12-10に示すとおりである。

アカネズミは全地点で確認され、ヒメネズミは主な環境が広葉樹であるM2でのみ延べ3個体が確認された。

表10-12-10 トラップ調査結果

種名	M1(計画地内)				M2(広葉樹)				M3(針葉樹)				M4(針葉樹)			
	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季
アカネズミ		1			1				1		1		1	3		1
ヒメネズミ						1		2								

注：数字は捕獲個体数を示す。

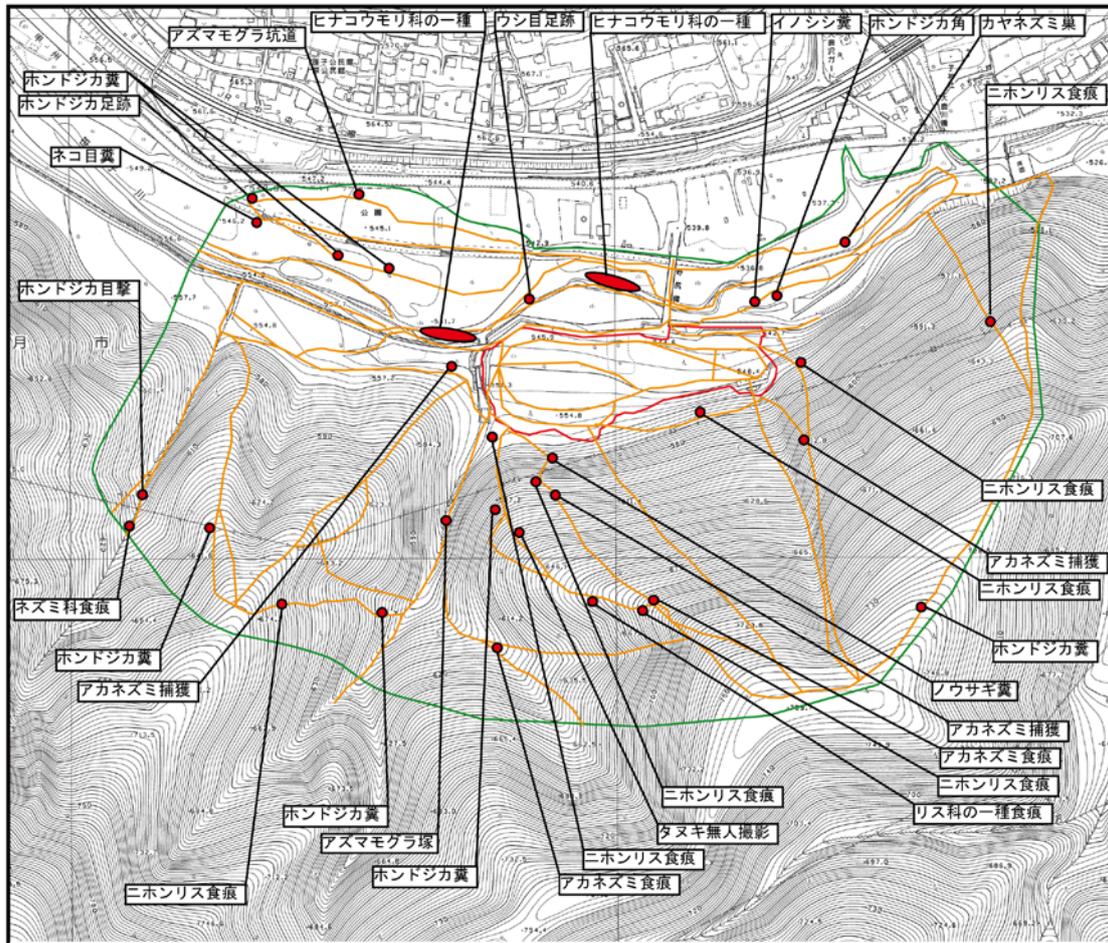
ロ) 夜間調査

夜間調査ではヒナコウモリ科の一種とコウモリ目の一種の2種が確認された。夜間調査の結果は表10-12-11に示すとおりである。2種ともにバットディテクターでの確認であり、種までの同定は困難であったため、科または目の一種までの同定に留めた。

ヒナコウモリ科の一種はバットディテクター50kHz帯で夏季、秋季及び春季に計画地周辺の河川上空及び広葉樹林上空を飛行する個体が確認された。コウモリ目の一種はバットディテクター20kHz帯で春季に計画地上空の高空で飛行する個体が確認された。

表10-12-11 夜間調査結果

種名	夏季	秋季	冬季	春季	備考
ヒナコウモリ科の一種	●	●		●	BD50kHz
コウモリ目の一種				●	BD20kHz



大月市基本図 吉久保(大月市)

凡例

- : 計画地
- : 陸上動物調査範囲
- : 踏査ルート

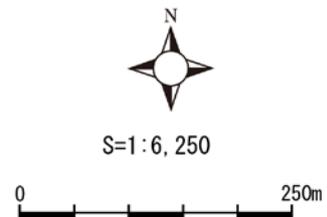
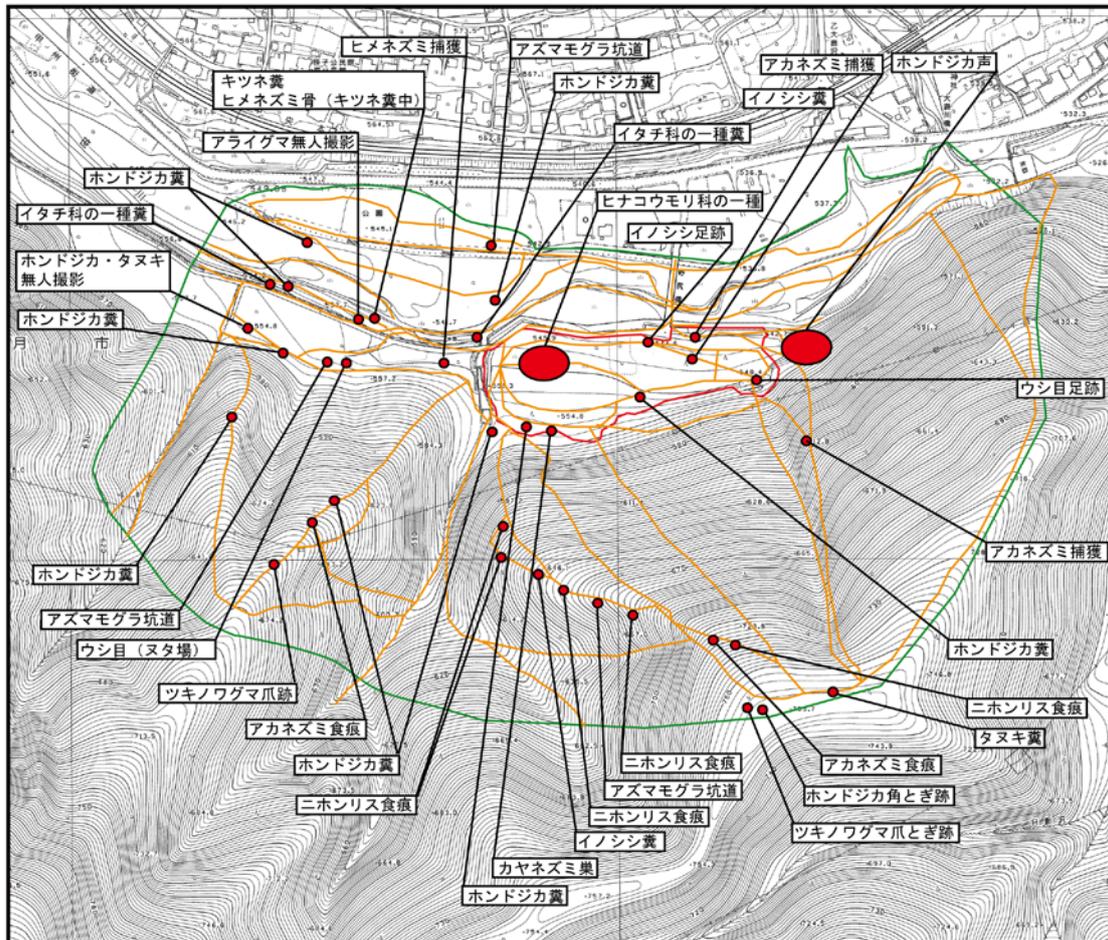


図 10-12-2(1) 哺乳類確認位置図(夏季)



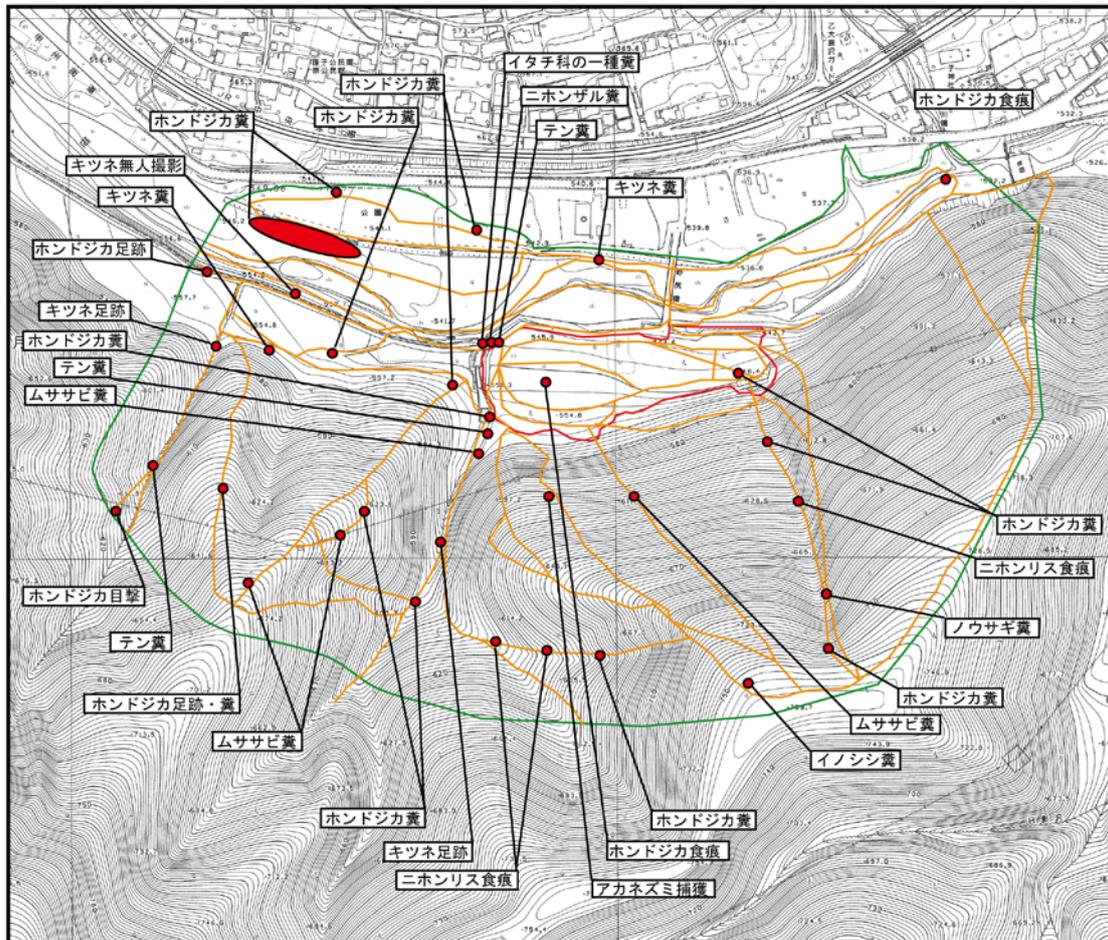
大月市基本図 吉久保(大月市)

凡例

- : 計画地
- : 陸上動物調査範囲
- : 踏査ルート



図 10-12-2(2) 哺乳類確認位置図(秋季)



大月市基本図 吉久保(大月市)

凡例

- : 計画地
- : 陸上動物調査範囲
- : 踏査ルート



S=1:6,250



図 10-12-2(3) 哺乳類確認位置図(冬季)

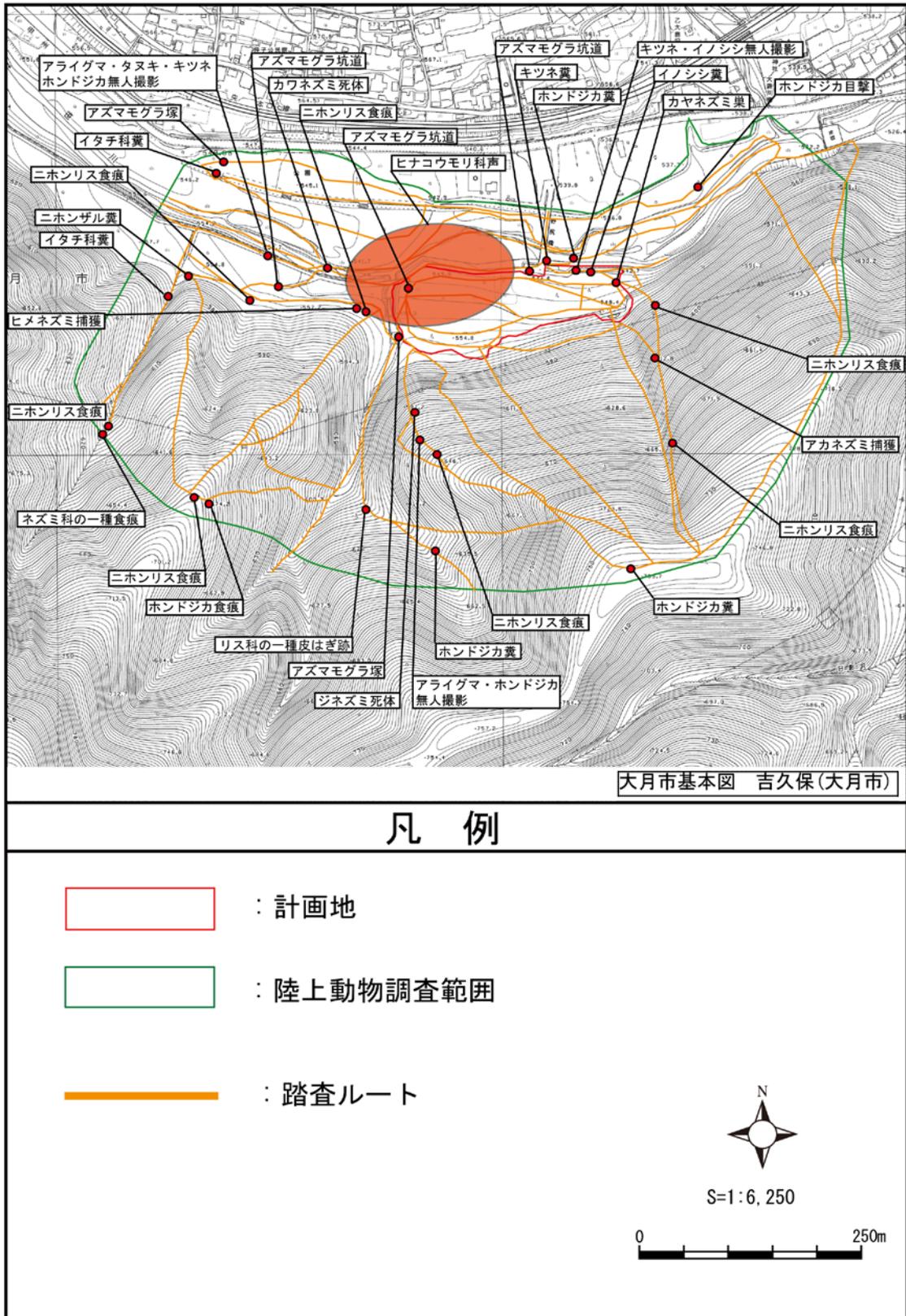


図 10-12-2(4) 哺乳類確認位置図(春季)

ウ. 両生・爬虫類

ア) 確認種概要

現地調査の結果、2綱2目7科12種の両生・爬虫類が確認された。確認された両生・爬虫類のリストは表10-12-12、その位置は図10-12-3(1)～(3)に示すとおりである。計画地ではニホンカナヘビ、シマヘビの2種、周辺域ではニホンアマガエル、タゴガエル、ヤマアカガエル、カジカガエル、ニホントカゲ、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ヒバカリ、ヤマカガシ及びニホンマムシの11種が確認された。調査範囲内での両生類相は、タゴガエル、ヤマアカガエル等の主に湧水のしみ出しや細流に産卵する種、カジカガエル等の主に河川本流の比較的流れが速い場所に産卵する種が確認されたが、主に水田やその周辺の水路等に産卵する種はアマガエル1種の確認のみで、種類相は貧弱であった。

また、調査範囲内での爬虫類相は、主に水田や河川の水辺に生息するシマヘビやヤマカガシ、森林内や草地、農地など多様な環境に生息するアオダイショウやニホンマムシ、主に森林内に生息するタカチホヘビやヒバカリ、主に林縁の草地に生息するカナヘビやニホントカゲが確認されており、比較的多样であった。

表 10-12-12 両生・爬虫類確認種リスト

No.	綱名	目名	科名	種名	学名	目撃・フィールドサイン・夜間調査						確認状況				
						計画地内			周辺域							
						夏季	秋季	春季	夏季	秋季	春季					
1	両生綱	無尾目	アマガエル科	ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>						●	夜間調査(成体)				
タゴガエル				<i>Rana tagoi tagoi</i>					●	●	捕獲・目撃(幼生)					
ヤマアマガエル				<i>Rana ornativentris</i>					●		捕獲(成体)					
3	爬虫綱	有鱗目	アマガエル科	カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>						●	目撃(幼生)				
ニホントカゲ				<i>Plestiodon japonicus</i>							●	目撃(成体)				
ニホンカナヘビ				<i>Takydromus tachydromoides</i>								●	目撃(成体)			
6	爬虫綱	有鱗目	カナヘビ科	タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>							●	目撃(成体)			
7				シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>									●	捕獲(成体)	
8				アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>										●	目撃(成体)
9				ヒバカリ	<i>Amphiesma vibakari vibakari</i>										●	目撃(成体)
10				ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus tigrinus</i>										●	目撃(成体)
11				クサリヘビ科			<i>Gloydus blomhoffii</i>								●	目撃(成体)
12																●
合計				2綱	2目	7科	12種		0種	0種	2種	10種	4種	6種	-	
									2種				11種			

種名及び配列は平成24年度版「河川水辺の国勢調査のための生物種リスト(財団法人リバーフロント整備センター)」に従った。

イ) 夜間調査

夜間調査では春季にアマガエル 1 種が確認された。夜間調査の結果は表 10-12-13 に示すとおりである。アマガエルは春季に計画地周辺の笹子川河川敷で成体の 1 個体の声が確認された。

表 10-12-13 夜間調査結果

種名	夏季	秋季	春季	確認状況
アマガエル			●	声